



株式会社ニデック 環境報告書 2014

NIDEK Environmental Report 2014

THE ART OF EYE CARE





目次

環境経営の推進にあたり・方針

環境経営責任者からのメッセージ	2
環境方針	3
ニデック環境管理推進組織図	4

環境活動

2013年度環境保全活動の目標と実績	5
2014年度環境保全活動の目的・目標と設定趣旨	6
工場の環境負荷概要	7-9
2013年度環境パフォーマンス	
CO2排出量 (参考: 浜町・大沢工場太陽光発電実績)	10
廃棄物量／PRTR法対象化学物質使用量	11
環境調和型製品のご紹介	12
エネルギー／資源消費量・廃棄物排出量の推移	
電力／重油	13
市水／最終廃棄物	14

社会活動・企業情報

CSRに関する取り組み	15-16
企業概要	17
工場概要	18
報告書基本情報／お問い合わせ先	19

事業活動を進める上で、企業利益と同様に環境経営を重要と考えております。



当社は、医療に関わる企業として、社会的責任を重視し、生命の源となる地球の環境にやさしい環境経営に努めております。

去年は新たに竣工しました、拾石工場第7棟の屋上にも、当社で3番目となる太陽光発電システムを設置し、更なるCO2の削減に取り組んでおります。

また、環境活動以外にも社会的責任の観点から、本業の特質を活かした活動ならび、地域の美化など、各種の社会貢献に取組み、将来への戦略的な投資を継続して進めております。

現在は、環境活動の報告として本報告書をまとめておりますが、今後、活動を拡張してより高次の報告ができるよう、活動の充実を図る所存です。

本報告と当社のウェブサイトを通じて、当社の取組みについてご理解いただければ幸いです。

2014年7月14日

環境経営責任者
常務取締役
コート事業部長

白井 康博

当社は、Eye & Health Careの担い手として医療機器等の製造、販売及びサービス活動を展開している。企業の社会的責任と地球及び地域環境保全の重要性を認識し、循環型社会形成に寄与する改善活動を継続的にこなうものとする。

1. 事業活動に伴う環境側面が環境に与える影響を的確に捉え、環境目的、及び目標を定め、全社員で取り組み、環境負荷の低減及び地球温暖化防止を推進するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。環境目的及び目標は定期的に見直し、必要に応じ改定する。
2. 環境に係わる法律、規制、条例等を順守し、利害関係者の意見を尊重する。
3. 事業活動、製品の製造及びサービスが環境に与える影響を考慮し、特に次の事項について重点的に環境保全活動を推進する。

(1) 製品の環境調和

主力製品から、有害物質の排除を促進するとともに、グリーン調達を推進する。

(2) 省エネルギー

エネルギー消費の少ない製品設計及び生産プロセスの導入等により省エネルギーを推進する。

(3) 廃棄物削減・省資源

資源の有効利用を図るとともに、本来の「ゼロエミッション」を推進して廃棄物等の総排出量の削減を図る。

(4) 環境社会貢献

CSRの観点から、環境情報の公開と、地域・社会とのコミュニケーションを通じて、環境保全に貢献する。

(5) 化学物質の適正管理

大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等の防止に努めるとともに、人の健康及び生物との共存の観点から化学物質の適正な管理を推進する。

4. 環境教育、社内広報活動等により全社員の環境方針の理解及び環境保全に対する意識の向上を図る。また、関連会社に対し理解と協力を求める。

この環境方針は、社外に対して公開する。

2013年4月1日

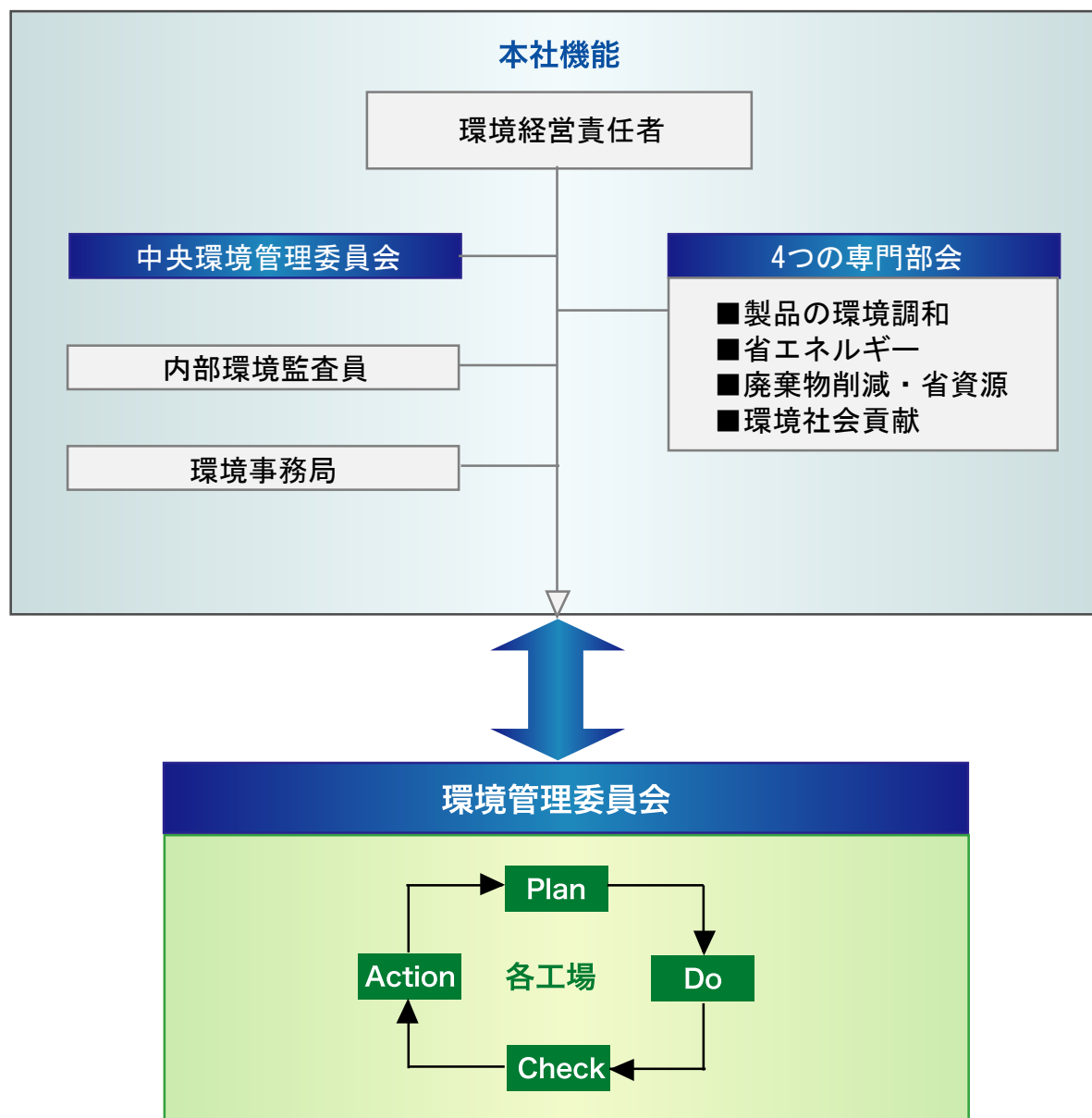
株式会社ニデック
環境経営責任者

白井 康博

第11版

ニデック環境管理推進組織図

当社では、環境経営責任者の下に、中央環境管理委員会と4つの専門部会を設置しています。また、各工場に環境管理委員会を置き、工場ごとに改善点を見出し、改善に向けたPDCAサイクルをまわしています。工場ごとの活動を中央環境管理委員会に報告し共有することで、全社をあげた改善を続けています。



2013年度環境保全活動の目標と実績

2013年度の環境保全活動の目標と活動実績のまとめは、次のとおりです。

	2013年度の目標	目標 達成状況	活動実績
製品の環境調和	▶ 環境法規制レビュー及び必要な措置の実施 ▶ 新製品を中心としたエコ設計の推進 ▶ EU: REACH規則、RoHS II 指令 (カテゴリー8 (医療機器) 中心) への対応	目標達成	▶ 海外 329件、国内 594件 / 計 923件 ▶ 製品アセスメントを新製品9機種で実施 ▶ RoHS II 指令への対応として、2014年7月22日前に当社対象 41機種全て適応できることを確認
省エネルギー	▶ 売上比原単位電力消費量の削減 (2012年度比、1%削減)	100.9%	▶ 電力設備の継続的改善/基礎電力の削減蒸着機器付帯設備の省エネ化、冷却水ポンプ/エアコンの運用方法見直し等 ▶ エアコン: 省エネタイプへ入替、照明: 省エネタイプへ入替、LEDに交換 ▶ 中部電力の企業向け省エネ診断(省エネウォークスルー)をコート3工場受審
廃棄物削減・省資源	▶ 売上比原単位廃棄物排出量の削減 (2012年度比、4%削減)	96.7%	▶ 目標未達成要因: 特別産業廃棄物の廃液の大幅な増加 (前年比: 1.74倍) ▶ 廃棄物総排出量: 476.1t/年間 (産廃: 239.6t、有価物: 236.5t) ▶ 最終廃棄物: 1.2t (全て一般産業廃棄物、特別産業廃棄物なし) ▶ 再資源化率: 99.5%
環境社会貢献	▶ 環境報告書の維持、管理 (2004年度版より) ▶ エコキャップ回収継続 (2009/03より) ▶ 地域クリーンキャンペーンへの参加	目標達成	▶ 環境報告書の維持、管理: 2013/07/31、2013年度版をHPに掲載 ▶ エコキャップ回収量: 250,704個、ポリオワクチン提供人数 291.5人分 提供人数累計 1,000人達成 (2014/01) ▶ 地域クリーンキャンペーンへの参加: 春・秋のクリーンキャンペーンに参加
適正管理 化学物質の	▶ 具体的な目的・目標は、各工場または主管部門、部署 (職場)、グループにて設定する ※法的要求事項及びその他の要求事項並びに技術上の選択肢、財務上、運用上、事業場の要求事項、利害関係者の見解も考慮する。	—	▶ 各工場または主管部門、部署 (職場)、グループの目標に付き、省略
環境側面の低減 工場の著しい	▶ 具体的な目的・目標は、各工場または主管部門、部署 (職場)、グループにて設定する ※法的要求事項及びその他の要求事項並びに技術上の選択肢、財務上、運用上、事業場の要求事項、利害関係者の見解も考慮する。	—	▶ 各工場または主管部門、部署 (職場)、グループの目標に付き、省略

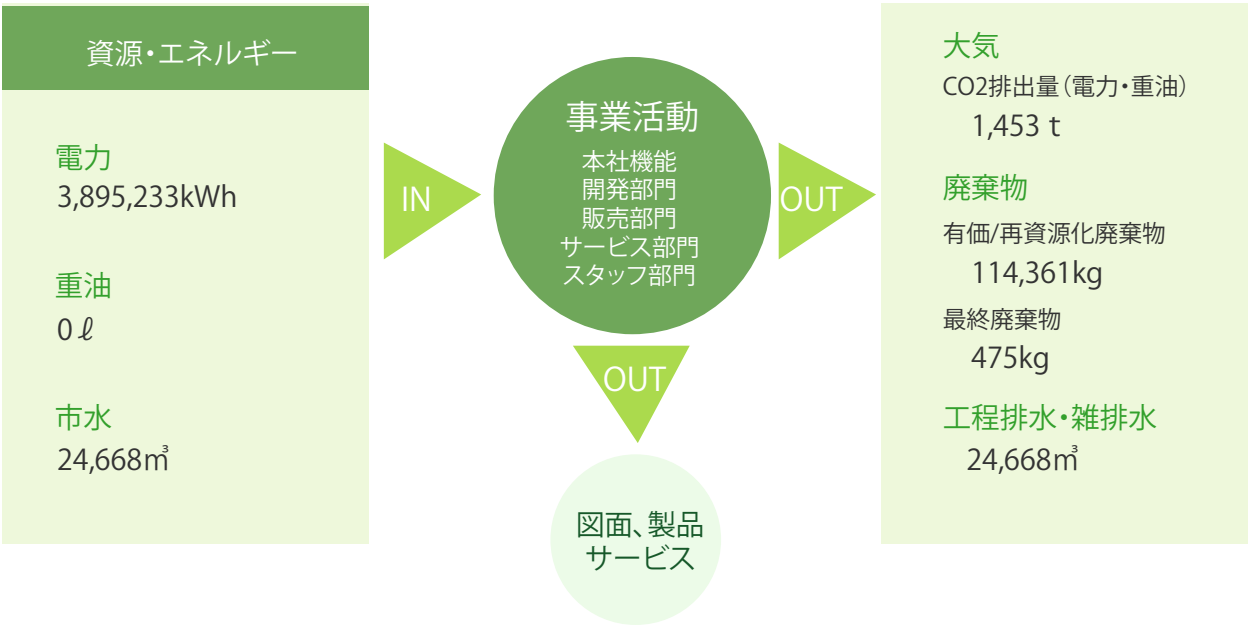
2014年度環境保全活動の目的・目標

2014年度は、環境保全活動をさらに進めるため、特に削減率の引き上げを中心として目標を見直し、活動を推進します。エコ設計については、製品単位での活動範囲を広げられるよう推進します。

	2013～2015年度の目的	2014年度の目標
製品の環境調和	▶ 環境法規制レビュー及び必要な措置の実施 ▶ エコ設計(環境配慮設計)の推進	▶ 環境法規制レビュー及び必要な措置の実施 ▶ 新製品を中心としたエコ設計の推進 ▶ EU: REACH 規則、RoHS II 指令 (カテゴリー8 中心) への対応 ※2014/07/22、EU上市分
省エネルギー	▶ 原単位電力消費量の削減 (2015年度までに、2012年度比、3%削減)	▶ 売上比原単位電力消費量の削減 (2012年度比、2%削減)
廃棄物削減・省資源	▶ 原単位廃棄物排出量の削減 (2015年度までに、2012年度比、10%削減)	▶ 売上比原単位廃棄物排出量の削減 (2012年度比、7%削減)
環境社会貢献	▶ CSRの観点から、環境情報の公開と地域・社会とのコミュニケーションを通じて、環境保全に貢献する	▶ 環境報告書の維持、管理 ▶ エコキャップ回収継続 ▶ 地域クリーンキャンペーンへの参加
化学物質の適正管理	▶ 自主的な化学物質の管理の改善を促進し、人の健康及び生物との共存を目的として、化学物質の使用量の削減、品種の削減及びより環境リスクの低い代替品の使用を検討・推進する	▶ 具体的な目的・目標は各工場または主管部門、部署(職場)、グループにて設定する ※ 法的要求事項及びその他の要求事項並びに技術上の選択肢、財務上、運用上、事業場の要求事項、利害関係者の見解も考慮する。
工場の著しい環境側面の低減	▶ 工場の環境影響評価より、環境に著しい影響を与える可能性のある側面(著しい環境側面)の低減に継続的に取り組む	▶ 具体的な目的・目標は各工場または主管部門、部署(職場)、グループにて設定する ※ 法的要求事項及びその他の要求事項並びに技術上の選択肢、財務上、運用上、事業場の要求事項、利害関係者の見解も考慮する。

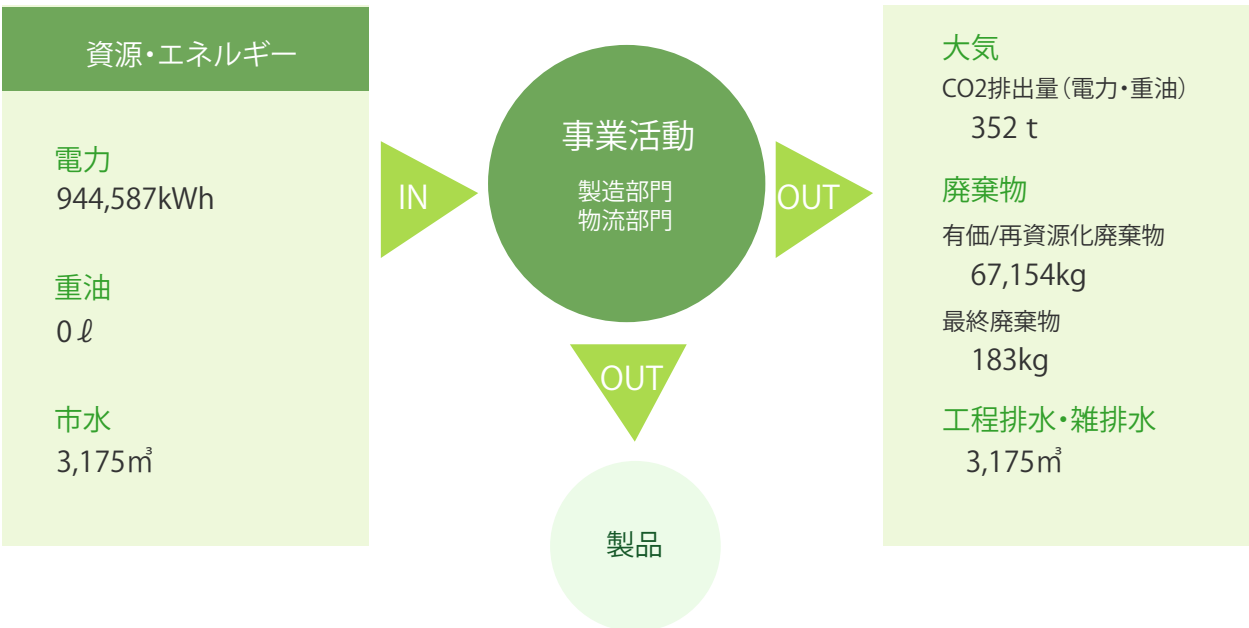
本社（拾石工場）第7棟を含む

会社運営における本社機能を中心に、開発部門、一部の製造部門、販売部門、サービス部門、スタッフ部門が業務を展開しています。



浜町工場

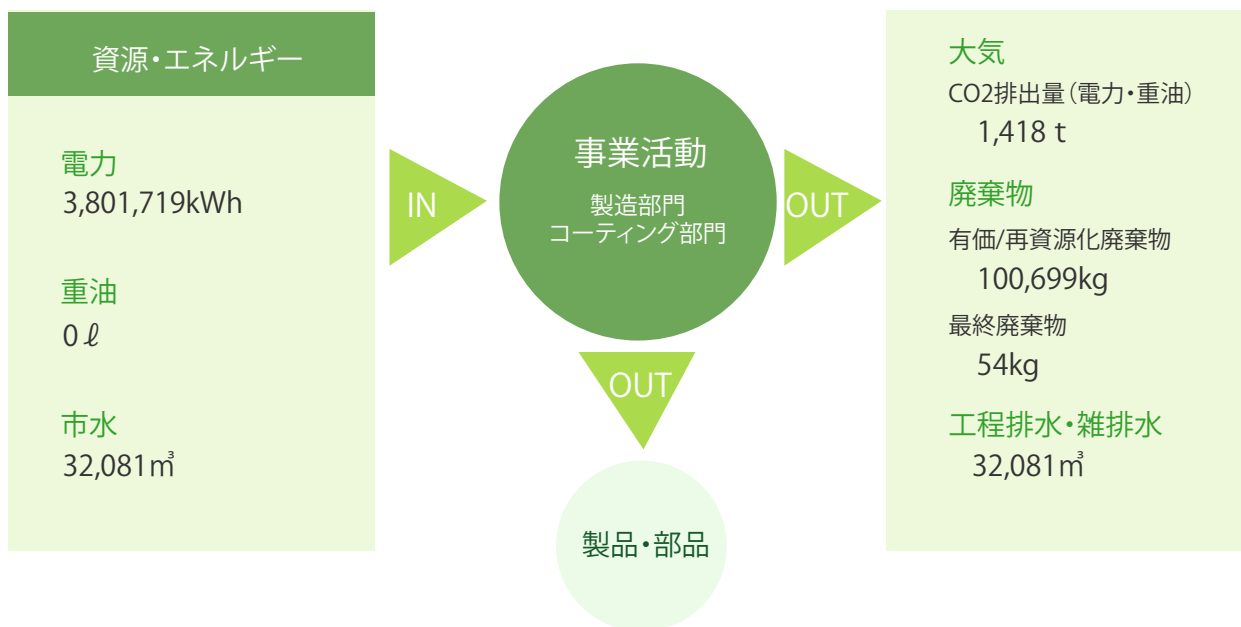
製品の部品購入、組立、部品や製品の検査、および物流の専門工場です。太陽光発電設備を備えています。



電気調整後排出係数 0.000373 (t-CO2/kWh)
A重油排出量算定係数 2.71 (t-CO2/kℓ)

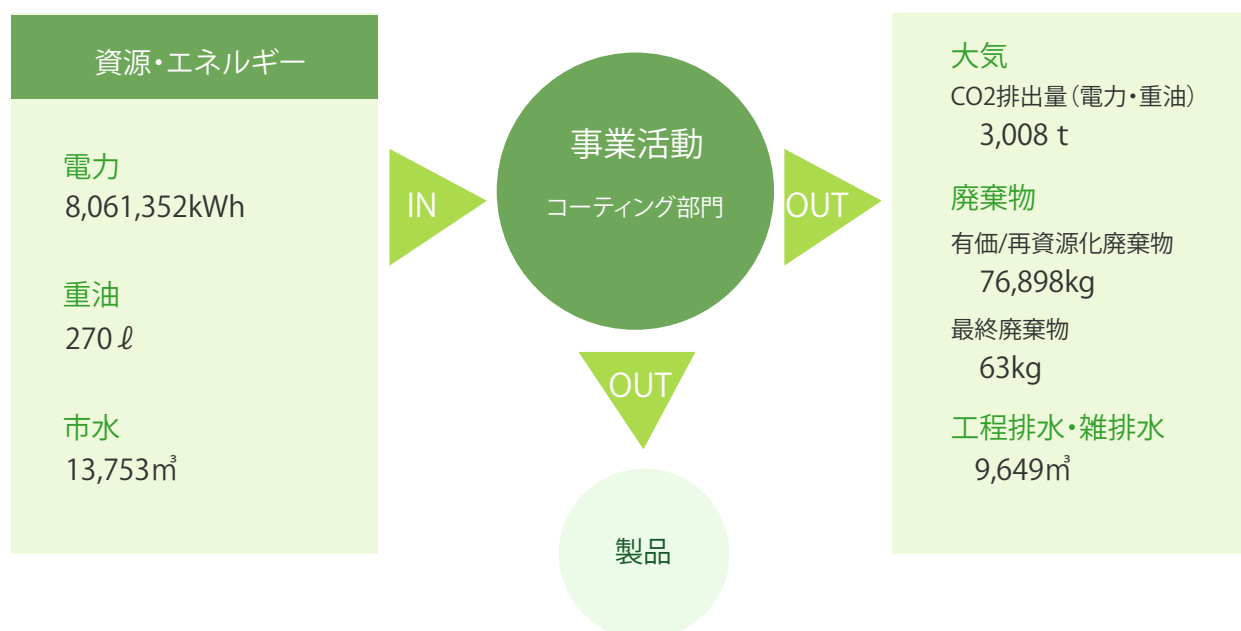
鶴ヶ浜工場

光学部品など製品内で使用する部品の製造や、眼鏡レンズへのコーティングをおこなう工場です。



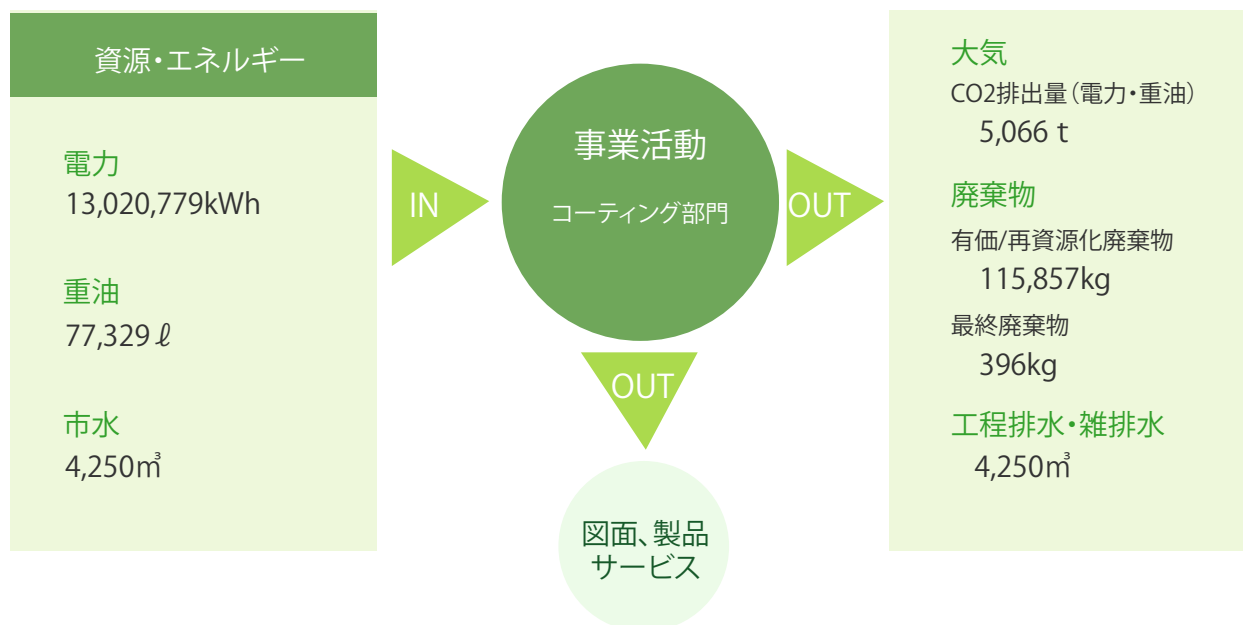
東浜工場

光学フィルターなどのコーティング工場として操業しています。



大沢工場

光学部品やディスプレイなどの基板表面へ、反射防止膜をはじめとするさまざまなコーティングをおこなう工場です。真空蒸着によるコーティング工場としては日本最大級の設備を備えています。また、太陽光発電設備を備えています。



地球のことを考えてエコドライブ！

私たちの身の回りにも地球温暖化や環境対策につながる家庭でできるエコロジーな取り組みがあります。ここでは、地球にやさしいエコドライブについて紹介します。皆さんも、ぜひ、取り組んでみてはいかがでしょうか。

ふんわりアクセル「eスタート」

普通の発進より少し緩やかに発進するだけで11%程度燃費が改善します。やさしいアクセル操作は安全運転にもつながります。

不要な荷物は積まずに走行

100kgの不要な荷物を載せて走ると、3%程度燃費が悪化します。車の燃費は、荷物の重さに敏感です。

道路交通情報の活用

1時間のドライブで、道に沿って10分余計に走行すると14%程度の燃費悪化に相当します。地図やカーナビ等を利用して、あらかじめ計画しましょう。

タイヤの空気圧をこまめにチェック

タイヤの空気圧が適正値より50kPa不足した場合、市街地で2%程度、郊外で4%程度、それぞれ燃費が悪化します。

●環境省 チャレンジ25
<http://www.challenge25.go.jp/index.html>



CO2排出量(電力及び燃料)

●使用資源・エネルギー別の排出量

各資源/エネルギーの使用量をCO2に換算した場合、電力によるCO2排出が大半であることが読み取れます。当社では、日頃から電力の節約に全社的に力を入れております。



電力

11,086.93t
(全体の95.8%)



A重油

210.29 t



ガソリン

250.89t



軽油

18.84t

総計 11,566.95t
前年比 87.4%

*2013年度から、社用車のガソリン・軽油使用量も報告に含めます(5工場+蒲郡支店)



太陽光発電の導入

当社は、燃料を使用したCO2の排出量を削減するため、2009年3月から浜町工場と、2013年2月から大沢工場の屋上に、また2014年から拾石工場第7棟に太陽光発電システムを導入しました。太陽光発電による電力は、浜町工場の電力の一部として利用しています。

2012年度の月別の発電力(*)実績は、日照量に応じて変動はありますが、年間約772,166kWhの電力を発電しています。

*パワーコンディショナー出力電力量

太陽光による発電により、どのくらいCO2の削減ができたのでしょうか。木が吸収するCO2量に換算して考えると、2013年度は約17,343本の杉の木を植樹したことに同じ効果を得られました。



拾石工場第7棟に設置した太陽光パネル



約17,343本

植樹の本数 = 発電量(kWh) × 0.02246

杉の木⇒1本あたり約14KgのCO2を吸収

計算係数:「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」 環境省・林野庁を参考に計算式を算出

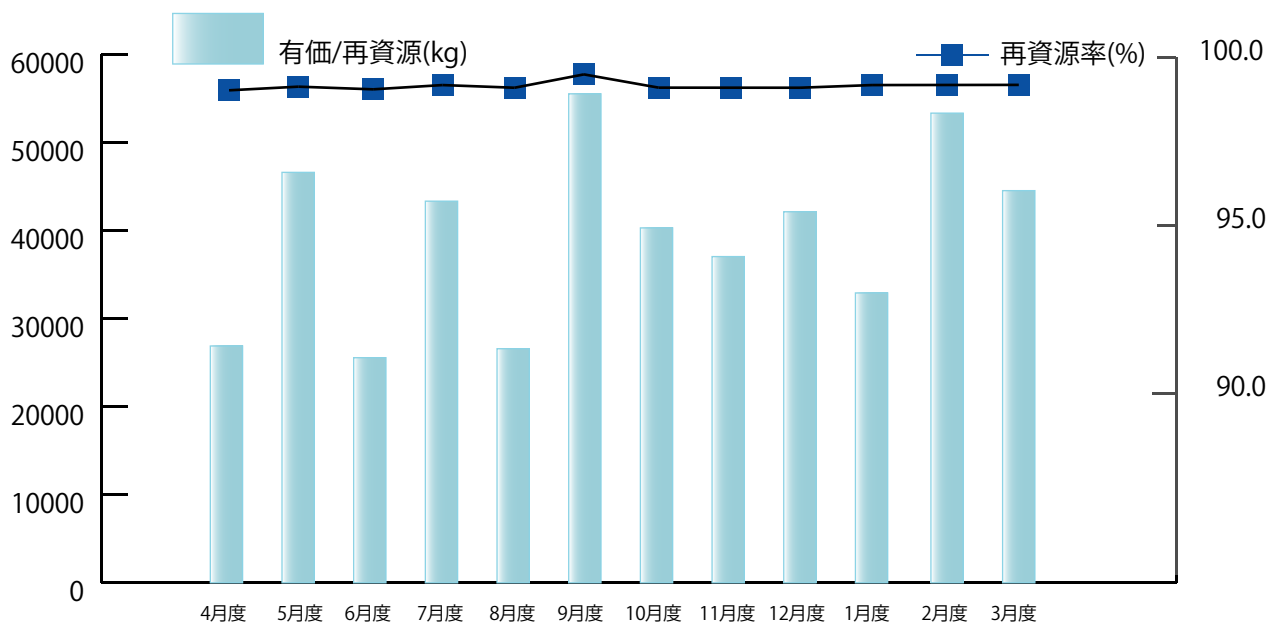
廃棄物量/PRTR法対象化学物質使用量

●廃棄物量／再資源化率の月別推移

廃棄物のゼロエミッション達成に向け、最終廃棄物の内容分析をし、再資源化率の向上を目指して全社的に活動を展開しています。2013年度も、99%以上の再資源化を通年で達成することができました。

単位：kg

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	合計
有価/再資源	26,903	46,629	25,573	43,356	26,593	55,550	40,317	37,060	42,152	32,929	53,357	44,552	474,970
最終廃棄	94	106	70	103	117	62	120	110	137	78	102	73	1,171
合計	26,998	46,734	25,642	43,459	26,710	55,613	40,436	37,170	42,289	33,007	53,459	44,625	476,141
再資源化率	99.7%	99.8%	99.7%	99.8%	99.6%	99.9%	99.7%	99.7%	99.7%	99.8%	99.8%	99.8%	99.8%



●特別管理産業廃棄物量

2013年度は、対前年比で175%と排出量が増加しました。

拾石工場の生産量増加による排出量増加が主な要因ですが、今後も最低限の廃棄物量に留められるよう、排出量のチェックと削減努力を強化します。

	拾石工場	浜町工場	鶴ヶ浜工場	東浜工場	大沢工場	計	対前年比
排出量	42,699.5	3,943.5	36,019.0	19,595.7	1,490.0	103,717.7	175%

単位：kg

●PRTR法対象化学物質使用量

PRTR法(*)に基づく第一種指定化学物質の2013年度の使用量について、経済産業省への届出対象となる鶴ヶ浜工場の使用量です。

鶴ヶ浜工場HCFC-225：1,450kg (2012年度より+450 kg)

*特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律

当社は、環境関連法規制への対応はもちろんのこと、環境への負荷を低減した製品の開発・製造を推進しています。2013年度には3つの環境調和型製品を発売いたしました。いずれも環境に配慮した設計により、性能や機能を向上させながらも、製品の分解性の向上および材料の再資源化を容易にし、環境への負荷低減を実現した製品です。

●2013年度に発売した環境調和型製品

オートレフラクトメータARシリーズ AR-1/AR-1a/AR-1s

眼の他覚的屈折度測定、自覚的屈折度測定の測定を使用目的とした医療機器です。屈折度測定として被検眼の屈折状態から球面屈折度、円柱屈折度、乱視軸角度を測定します。眼底反射光を利用した徹照像から、眼透光体の混濁の様子が観察できます。さらに混濁度合いの段階表示機能が、病変の進行状態の把握をサポートします。



オートレフケラトメータARKシリーズ ARK-1/ARK-1a/ARK-1s

眼の他覚的屈折度測定、角膜曲率半径の測定を使用目的とした医療機器です。屈折度測定として被検眼の屈折状態から球面屈折度、円柱屈折度、乱視軸角度を測定します。角膜曲率半径測定では、角膜の曲率半径(角膜屈折力)、主経線方向、角膜乱視量を測定します。



オートレフラクトメータ、オートレフケラトメータの装置の特徴として、分解が容易にできる製品設計であり、また、環境にやさしい部品や材料を採用しています。このような設計により再資源化率を約77%とし、環境保全に貢献しています。

エッジングステーションLE-700

サテライトレーサまたはコンピューターからのデータを基に、レンズに加工用のカップをブロッキングし、メガネフレームに合わせた形状にレンズを加工するための装置です。特徴として複数の砥石を備えレンズの材質、加工方法に合わせ、多様なレンズ加工に対応することができます。

又、オート加工(コンピューターで制御したヤゲン加工)、強制加工、平加工、溝掘り加工、鏡面加工などの加工ができます。従来機と比べ、重量を約21%軽量化しました。廃棄物削減や省資源化に貢献しています。



製品の環境調和専門部会からのメッセージ

環境調和型製品の創出においては、製品のライフサイクル全体から環境負荷を把握し、さまざまな角度からの改善を進めています。

環境負荷低減には「製品アセスメント実施規程」を基に、企画・設計段階から負荷低減を考えた活動が重要と位置づけ、開発部門や製造部門、並びにサプライチェーンと連携し、積極的な改善に取り組んでいます。

具体的には、再資源化が容易な製品材料の選択、製品の分解を容易にするための部品点数やネジの数の減少、包装資材の省資源化、製品廃棄時における廃棄手順書の提供などです。また、欧州規制(RoHS、WEEE)や中国RoHSへも適合しています。

今後も環境調和型製品の開発を推進し続けることにより、地球環境の負荷低減に努めていきます。

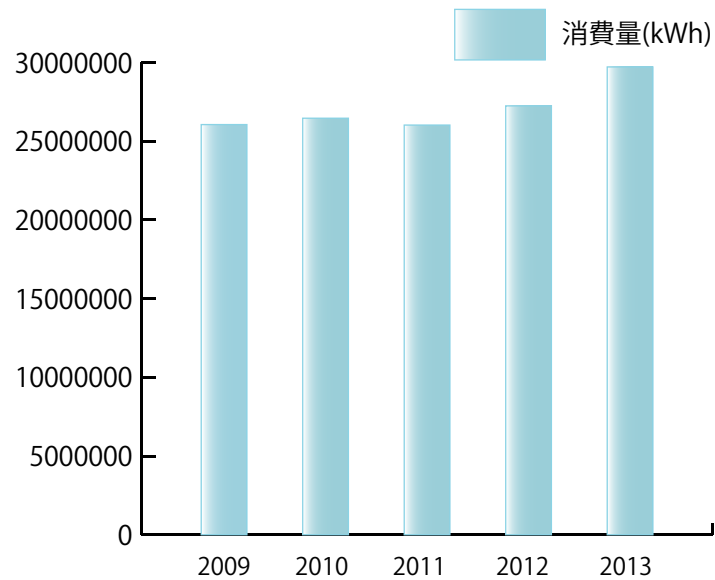
製品の環境調和専門部会
部会長 嶋崎 寛(品質保証部 部長)

電力/重油

●電力消費量

鶴ヶ浜工場、浜町工場については消費量を削減することが出来ましたが、全体としては生産量増加により電力消費量を低減出来ませんでした。

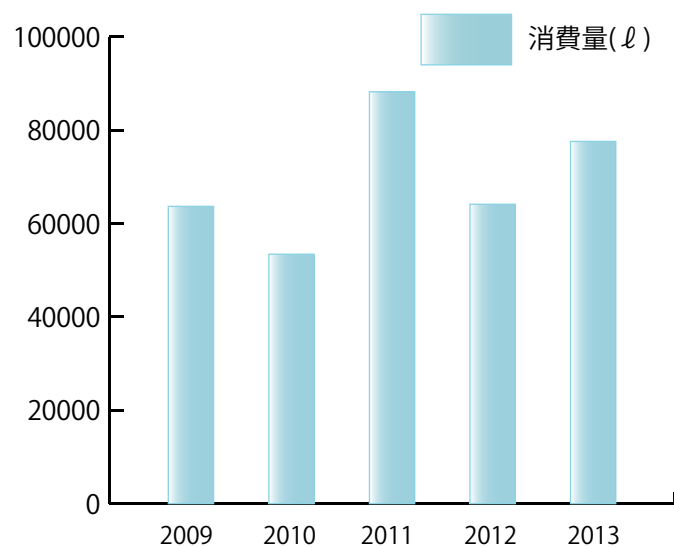
年度	消費量 (kWh)
2009	26,061,446
2010	26,465,755
2011	26,030,508
2012	27,249,207
2013	29,723,670



●重油消費量

生産増加に伴い、電力ピーク補填用発電に使用したため増加しました。

年度	消費量 (ℓ)
2009	63,686
2010	53,434
2011	88,222
2012	64,136
2013	77,599

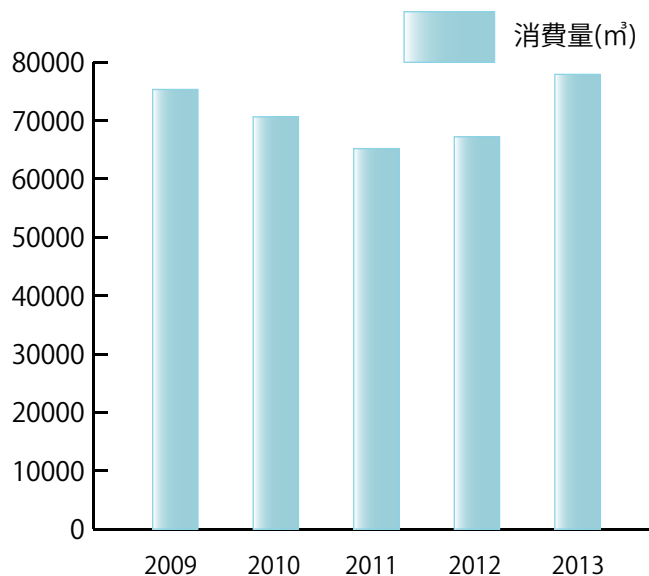


市水/最終廃棄物

●市水消費量

第7棟が昨年9月より生産稼動しており、使用量も増加しました。

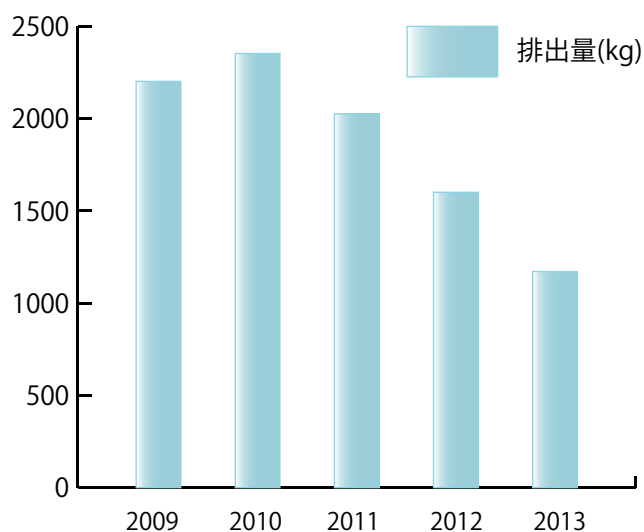
年度	消費量 (m ³)
2009	75,339
2010	70,650
2011	65,203
2012	67,232
2013	77,927



●最終廃棄物排出量

今まで以上に廃棄物の分別、リサイクル化に注意を払い、最終廃棄物排出量を削減することが出来ました。

年度	消費量 (kg)
2009	2,201
2010	2,352
2011	2,025
2012	1,600
2013	1,171



当社のゼロエミッション

当社の「ゼロエミッション」とは、「工場からの廃棄物総排出量の有価/再資源化率を99%以上」とする。
有価/再資源化率は、「(総排出量－最終廃棄物) ÷ 総排出量」で算出する。

当社では、環境活動以外にも、CSR（企業の社会的責任）の観点から、本業を通じ、また当社でできる活動である地域の美化活動などの環境保全活動や、各種の社会貢献活動に取り組んでいます。2013年度に当社が実施した活動の一部をご紹介します。

●エコキャップの回収

2009年から継続してエコキャップの回収に取り組んでいます。2013年度は、全社250,704個のキャップが集まり、ワクチンにして約292名分が集まりました。今後も、この活動を継続して取り組みます。



●クリーンキャンペーンへの参加

年に2回の蒲郡市のクリーンキャンペーンに合わせ、各工場の周りを清掃する活動に継続的に参加しています。また、ニデック・フィッシングクラブも、13年間連続で蒲郡市のクリーンキャンペーンでの清掃活動にボランティアとして参加しており、定期的な活動として定着しています。



●日本点字図書館への寄附

当社の有志による日本点字図書館への寄附活動も、定期的な活動として定着しています。2013年度は、運営のボランティアスタッフも増え、活動に広がりを感じる取り組みとなりました。視覚障害者のための音声ブックと日本点字図書館の運営費用として寄附をおこないました。



写真：点字図書とCD図書

●使用済み切手の回収と寄贈

2013年度使用済み切手の回収量は460gでした。社会福祉法人視覚障害者支援総合センターへ寄贈しました。



- 日本ミャンマー交流協会に
眼内レンズ、灌流チューブを寄贈
国際貢献の一貫として、特定非営利活動法人
日本ミャンマー交流協会 (AJMMC) に白内障手術後
に挿入される眼内レンズと硝子体手術装置 (CV) で
使用する灌流チューブを寄贈しました。



第23回眼科医療支援活動
提供：日本ミャンマー交流協会

- 豊橋市内の小学校にて出前授業
「セガマガールを打ち破れ!」を実施
地域貢献の一環として、目について興味を持って
いただけるよう、小中学校向けの講演活動を実施
しております。“盲点”を探す体験や、自身の“利き目”
を確認し、眼の構造や「近視」、「遠視」、「乱視」など
を紹介しました。また、睡眠の質を高めるために、
デジタルデバイスとの付き合い方など生活習慣の
改善を促しました。



- 白内障・硝子体手術装置 Fortas® APXを
蒲郡市民病院に寄贈
蒲郡市民病院へ、白内障・硝子体手術装置
Fortas® APXの寄贈をおこないました。本製品は、
眼科手術である、白内障手術と硝子体手術の二役
をこの1台でおこなうことができます。蒲郡がより
活性化することを願い、今できることは何かを
考えた結果、この手術機器の寄贈が実現しました。



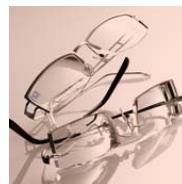
名 称	株式会社ニデック
本 社	〒443-0038 愛知県蒲郡市拾石町前浜 34-14 Tel. 0533-67-6611
代 表 者	代表取締役社長 小澤素生
設 立	1971年7月7日（創業日8月8日）
資 本 金	4億6189万円
売 上 高	299.2億円（2009年度） 307.9億円（2010年度） 314.8億円（2011年度） 335.3億円（2012年度） 372.7億円（2013年度）
従業員数	1,520名（2014年3月末日現在）

●事業内容



医療分野

高精度な眼科向け手術装置、レーザ機器、検査診断装置などの開発・製造・販売を総合的にこなしています。近年では、活躍の場を健診分野にも広げています。



眼鏡機器分野

視力測定、レンズ測定、レンズ加工といったメガネづくりの全工程を支えているのは、ニデックの“確かな技術”です。省スペース化、作業の効率化を実現し、見える喜び、かける喜びを感じていただくお手伝いをしています。

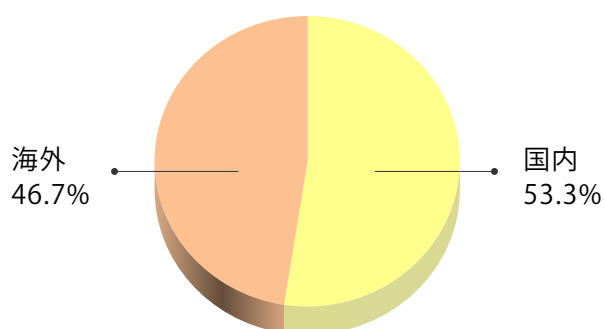


コーティング分野

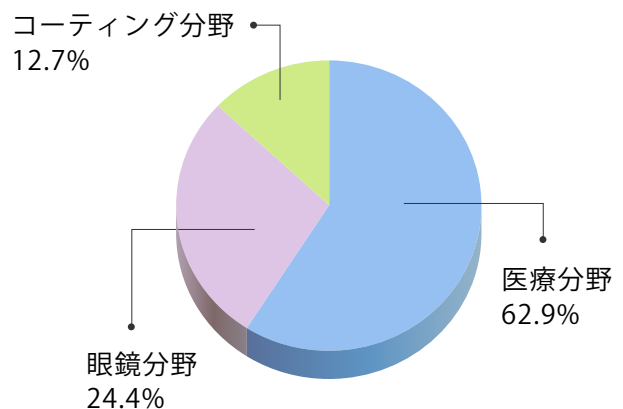
コーティングは、光学材料などへの反射防止や、特定波長だけを透過・反射させる“光を操る先端技術”です。メガネレンズをはじめ、情報通信・自動車・医療・宇宙工学など、多彩な分野で活用されています。

●2013年度売上比率データ

海外輸出比率



売上構成比率



●本社(拾石工場)



住所 〒443-0038 愛知県蒲郡市拾石町前浜34-14
 環境管理責任者 総務部 部長 近藤雅人
 敷地面積 29,969 m²
 建物(延) 16,644 m²
 従業員数 749名
 設置 1976年(昭和51年)

●東浜工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町73-1
 環境管理責任者 コート生産部 部長 石井雅敏
 敷地面積 13,155 m²
 建物(延) 8,195 m²
 従業員数 69名
 設置 1996年(平成8年)

●浜町工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町67-4
 環境管理責任者 機器製造部 部長 加藤眞吾
 敷地面積 22,200 m²
 建物(延) 13,327 m²
 従業員数 291名
 設置 1984年(昭和59年)

●大沢工場



住所 〒443-0104 愛知県蒲郡市形原町大沢27-4
 環境管理責任者 コート事業企画室 室長 柴田芳宏
 敷地面積 57,396 m²
 建物(延) 11,032 m²
 従業員数 121名
 設置 2000年(平成12年)

●鶴ヶ浜工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町23-1
 環境管理責任者 部品製造部 部長 植村克彦
 敷地面積 14,820 m²
 建物(延) 6,871 m²
 従業員数 107名
 設置 1989年(平成元年)

敷地面積、建物(延)、従業員数：2014年3月31日時点
 従業員数：本頁では役員、顧問、嘱託／パート／派遣社員を含む

●報告書基本情報

報告対象組織：株式会社ニデック

本社(拾石工場)
浜町工場(研究棟除く)
鶴ヶ浜工場
東浜工場
大沢工場

報告対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日

発行日：2014年7月31日

作成部署：環境社会貢献部会/企画部

●お問い合わせ先

企画部 広報課

Tel: 0533-67-6753

Fax: 0533-67-6610

E-mail: info@nidek.co.jp

※ 当社に関する詳しい情報は、Webサイトをご覧ください。
URL <http://www.nidek.co.jp>

